

大阪・箕面の生物多様性を脅かす外来生物の現状

生物多様性研究フォーラム「箕面の外来生物と生物多様性」
2022年2月11日

生物多様性センター
幸田良介

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries,
Osaka Prefecture

1

環農水研 生物多様性センター

- 生物多様性に関する調査研究・地域活動支援を行う拠点
 - 2018年オープン(元 水生生物センター) 寝屋川市にある(淀川のすぐ横)



センター本館



ピオトープ池

私たちの暮らしに欠かせない「生物多様性の恵み」を
未永く得られる社会をめざし、生物多様性研究でみんなをつなぐ！

生物多様性センターの業務

在来生物の調査・保全



外来生物の影響調査と対策



市民の安心安全を守る取り組み



生物多様性活動支援・技術普及









生物のつながりの把握と活用




2

大阪で確認されている外来生物

- 1,047種の定着が確認(大阪市立自然史博物館 2020)
 - 哺乳類 11
 - 鳥類 13
 - 爬虫類・両生類 4
 - 魚類 23
 - 昆虫以外の無脊椎動物 62
 - クモ類 5
 - 昆虫 189
 - 植物 740

特定外来生物の確認は32種(小さな大阪で指定種の約2割を占める)

大阪は外来生物問題の最前線地域！
以下、当センターでの調査結果等について、いくつか紹介します

3

淀川・ワンドの外来生物

- 城北ワンド:天然記念物イタセンバラが生息
 - 2006年から生息確認が途絶えていた
 - 2013年に当センターで保存していた500尾を放流




ワンドの生息環境を改善し、野生復帰に成功！

4

対策前のワンドの状況は・・・

- 2006年のワンド干し上げでの魚類調査結果



外来魚の大繁殖

ブルーギル 約3500尾

ブルーギル	89.3%
フナ類	4.6%
カダヤシ	1.4%
オオクチバス	0.9%

地道な外来生物対策の継続により
淀川在来の魚たちが復活！
現在でも継続的な取り組みが必要

5

淀川・ワンドの新たな脅威

チャネルキャットフィッシュ

- 原産:北アメリカ
- 肉食性で在来魚類や甲殻類への影響が大きい
- 2012年に淀川で初記録

延縄による捕獲調査(2020～)

- 三川合流～淀川大堰にかけて7カ所で捕獲調査を実施
- ほぼ全ての地点で捕獲あり
- ワンドでも稚魚を確認

侵入初期段階で確認も分布拡大に歯止めがかからず

継続的なモニタリングと効果的な対策手法の確立が必要


6

クビアカツヤカミキリの侵入と被害



- 原産：中国、朝鮮半島など
- 幼虫がサクラ・モモ・ウメ等の成木を食い荒らす
 - 大阪でもサクラの被害が拡大中

被害木が確認されたメッシュの変化



2012年に日本で初確認
大阪では2015年に確認

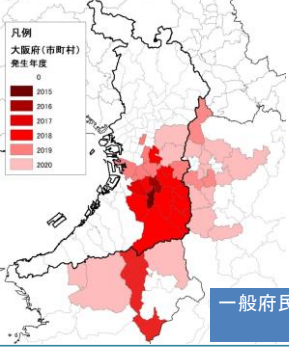
侵入初期段階で確認も分布拡大に歯止めがかからず

フラス(木くずや糞の混合物)が大量に発生

写真出典：大阪府立環境農林水産総合研究所 クビアカツヤカミキリ被害対策のガイド書(改定第3版)

7

近隣府県を含む分布拡大状況



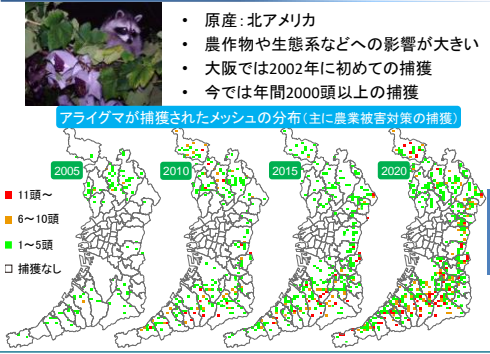
- 近隣府県でも分布拡大中
 - 広域的な情報共有が必要
- 基本は年2km程度の拡大速度
 - ただししばしば長距離移動が発生
- 2021年度も分布拡大が継続
 - 成虫のみ：大東市・岸和田市
 - フラス確認：高槻市・和泉市
 - 高槻市の情報は一般府民のSNSから箕面も要注意！

一般府民の目も活用した綿密な監視体制と素早い対策の実装が必要

写真出典：大阪府立環境農林水産総合研究所

8

アライグマの分布拡大



- 原産：北アメリカ
- 農作物や生態系などへの影響が大きい
- 大阪では2002年に初めての捕獲
- 今では年間2000頭以上の捕獲

アライグマが捕獲されたメッシュの分布(主に農業被害対策の捕獲)

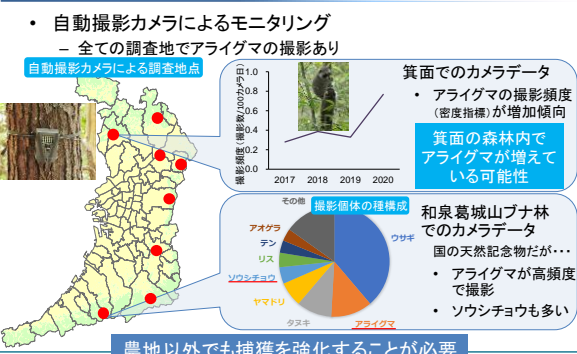
大阪都心部へ向けて分布拡大が継続中

11頭～
6～10頭
1～5頭
捕獲なし

写真出典：大阪府立環境農林水産総合研究所

9

山中にも広がるアライグマ



- 自動撮影カメラによるモニタリング
 - 全ての調査地でアライグマの撮影あり

自動撮影カメラによる調査地点

箕面でのカメラデータ
アライグマの撮影頻度(密度指標)が増加傾向
箕面の森林内でアライグマが増えている可能性

和泉葛城山ブナ林でのカメラデータ
国の天然記念物だが…
アライグマが高頻度で撮影
ソウシチョウも多い

撮影個体の種構成

農地以外でも捕獲を強化することが必要

写真出典：大阪府立環境農林水産総合研究所

10

ヌートリアの分布拡大



- 原産：南アメリカ
- 農作物、水生植物、二枚貝への影響が懸念
- 大阪では淀川流域や北摂地域を中心に分布
- 近年は中部地域や南部地域でも分布拡大傾向

ヌートリア侵入時期

動物愛護の観点も含めた普及啓発が重要

公園の池などでは、明らかに餌付け個体も…

淀川周辺では、同じく特定外来生物であるナガエツルノゲイトウをよく採食
食べ残した破片が散乱…

ナガエツルノゲイトウの拡散を助長している可能性も？

写真出典：大阪府立環境農林水産総合研究所

11

花のきれいな外来生物

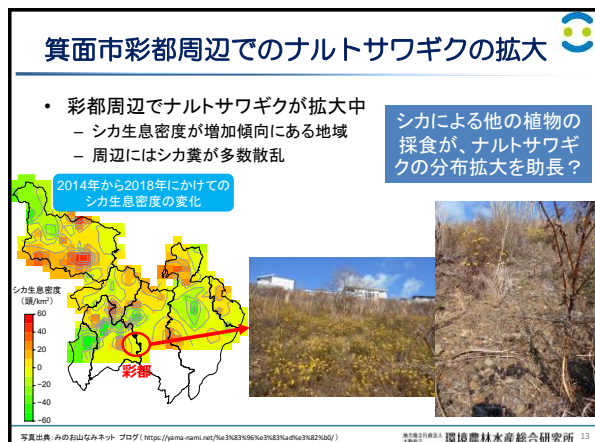


- ナルトサワギク**
 - 原産：マダガスカル
 - 有毒で、一年中花を咲かせる
 - 河川敷や法面などで分布拡大
 - 2017年に開通した新名神高速道路沿いでもよく見られるように
- オオキンケイギク**
 - 原産：北アメリカ
 - 道端、空き地、河川敷などできれいな花を咲かせ、しばしば大群落に
 - きれいに刈り残されていることも

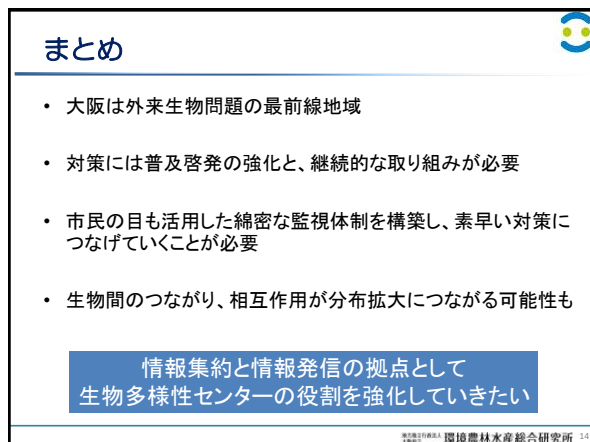
特定外来生物であることを含めた普及啓発と、地道な対策が必要

写真出典：大阪府立環境農林水産総合研究所

12



13



14